

地質調査所の標本(その5)

方解石 Calcite

Stalagmite あるいは鉱温泉に沈澱する石灰華
Calcareous Sinter なども CaCO_3 で方解石属
のメンバーである。

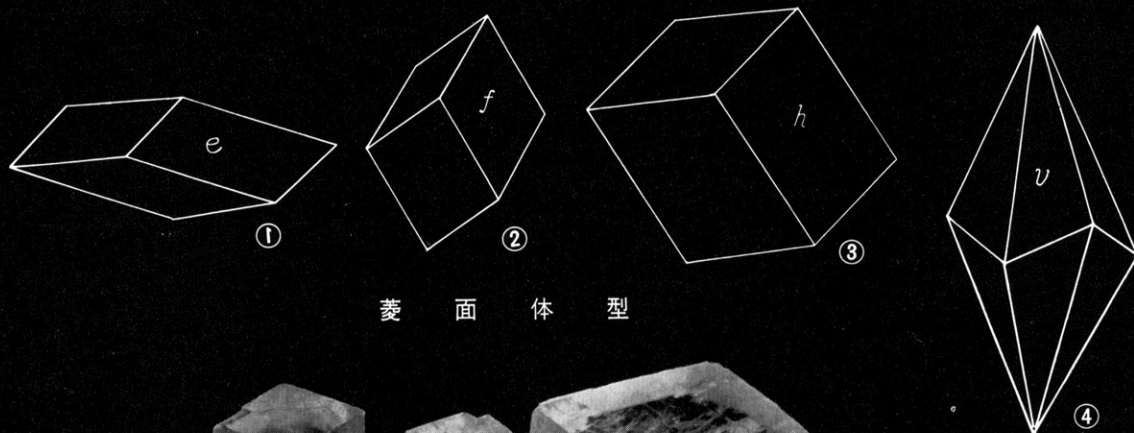
方解石は「際限なく菱形に割れ 物体が二重
に見える」という性質から一般によく知られ
分布も鉱物中 石英に次いで広い。

この鉱物の化学成分は CaCO_3 で石灰岩と同質
で 同岩の変質せる結晶質石灰岩(大理石)は
方解石の粒状集合からできている。また石灰岩
中の鐘乳洞に成生する鐘乳石 Stalactite 石筍

方解石の結晶は六方晶系に属し 結晶の発達
は主として ① 鉱脈 接触鉱床および交代鉱
床 ② 火山岩の晶洞 ③ 石灰岩の空隙によ
く行われ しかも産地・産状により結晶形の変
化に富み 無色・白色・あめ色の透明~半透明
となって標本として美しいものが少なくない。

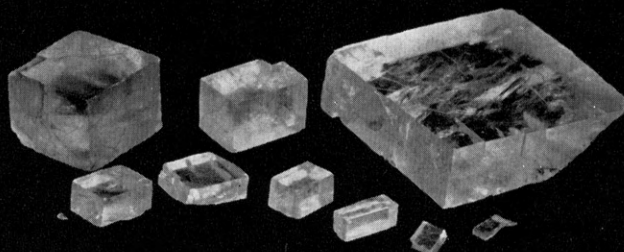
方解石の晶相を大別すると

方解石の結晶



菱面体型

偏三角面体型



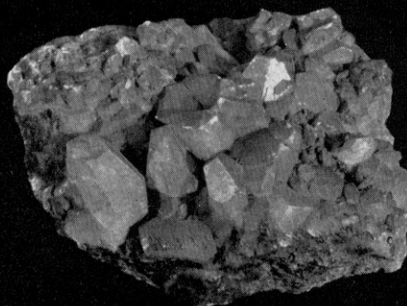
方解石(劈開片)

① 埼玉県大滝村二子山 $\times \frac{1}{2}$



方解石

① 岐阜県神岡鉱山 $\times \frac{1}{2}$



方解石

① 岐阜県洞戸鉱山 $\times \frac{1}{2}$

菱面体型 $e(01\bar{1}2)$ $f(02\bar{2}1)$ あるいは $h(03\bar{3}2)$ などを主面とする結晶
産状 ㊸ ㊹ にこの型が多い

偏三角面体型 $y(32\bar{5}1)$ $r(53\bar{8}2)$ あるいは $v(21\bar{3}1)$ などを主面とする結晶
産状 ㊺ の鉱脈に多く見られる

柱面型 $m(10\bar{1}0)$ あるいは $a(11\bar{2}0)$ の発達する結晶
産状 ㊻ より産出

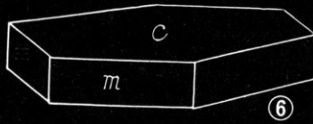
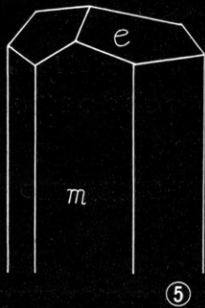
底面型 $c(0001)$ の発達する結晶

産状 ㊼ にまれに見られる

に分けられるが 普通これらの面がいくつか組合わされた複雑な聚形であることが多い。

双晶はCを双晶面とする貫入 あるいは接触双晶がもつとも多く e または f などを双晶面とする蝶形の接触双晶もよく見出される。

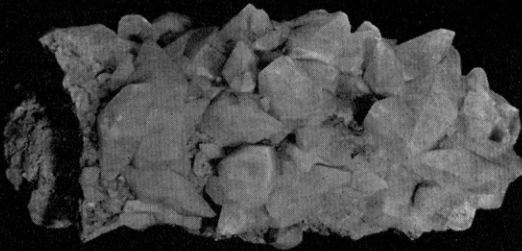
用途は同属の石灰岩はセメント・化学薬品原料・精錬用熔剤など広範囲に応用され 大理石は装飾用建築石材 透明な方解石は光学器械に用いられる。 (標本室)



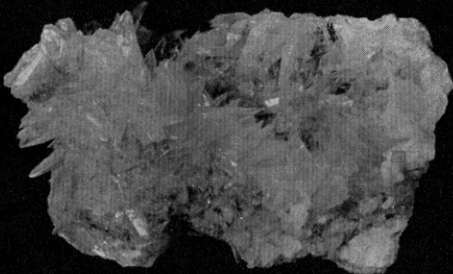
↑ 底面型
~~~~~  
← 柱面型



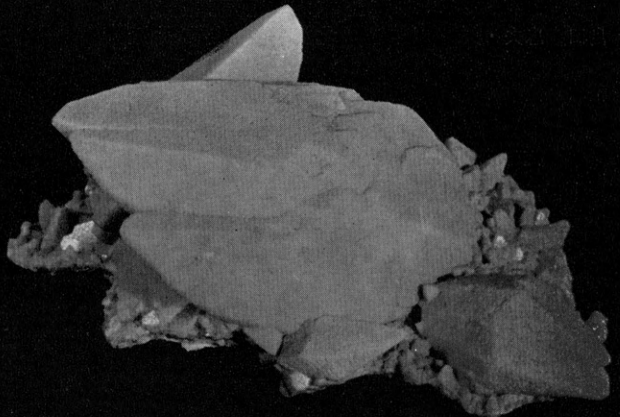
② 方解石  
山形県大鳥鉱山 × ㊼



② 方解石  
秋田県不老倉鉱山 × ㊼



② 方解石  
茨城県西茨城郡西山内村峠山 × ㊼



② 方解石  
兵庫県竹野鉱山 × ㊼